

## 大気汚染常時監視測定局に係る適正配置検討部会及び審議経過

### 1 検討部会委員

|        | 区分          | 氏名    | 団体名・役職                     |
|--------|-------------|-------|----------------------------|
| 部会長    | 学識経験者（法律）   | 浅野 直人 | 福岡大学 名誉教授<br>北九州市環境審議会 会長  |
| 委員     | 学識経験者（大気環境） | 藍川 昌秀 | 北九州市立大学国際環境工学部 教授          |
| 特別委員   | 学識経験者（大気環境） | 竹村 俊彦 | 九州大学応用力学研究所 教授             |
|        | 関係行政機関      | 野中 正浩 | 福岡県環境部環境保全課 課長             |
| オブザーバー | 関係行政機関      | 佐藤 健司 | 北九州市保健福祉局保健環境研究所 試験・研究担当課長 |

### 2 審議経過

#### （1）第1回検討部会（平成30年5月25日）

##### <審議内容>

- ・本市の現状、主な社会情勢の変化、適正配置の検討手法と今後の進め方 等

##### <主な委員ご意見>

- ・国のマニュアルに基づく手法は域内からの影響が前提であるため、0x やPM2.5 の状況を整理するなど越境大気汚染への対応を加味する必要がある。
- ・国の事務処理基準による全国的視点からの検討では本市は現在の約半分となるが、大幅な削減はデータの連続性や継続的な監視の観点から好ましくない。

#### （2）第2回検討部会（平成30年6月27日）

##### <審議内容>

- ・シミュレーション結果と適正配置の事務局案、検討部会報告書の骨子 等

##### <主な委員ご意見>

- ・シミュレーション結果に基づく領域毎の検討に加え、行政区毎にも検討されており、バランスよく測定局が配置されている。
- ・地域の特性も考慮し、事務処理基準上の必要数よりも多くの測定項目及び測定地点を設定し充実したものである。
- ・越境大気汚染への対応として、環境基準達成率の低い0x及びPM2.5はしっかりと維持強化を図っており、ポイントをおさえている。

#### （3）第3回検討部会（平成30年8月6日）

##### <審議内容>

- ・検討部会報告書の事務局案 等

##### <主な委員ご意見>

- ・市域全体として大気環境が改善傾向にあることを丁寧に説明し、現在の監視体制の工夫が必要であると整理すべきである。
- ・福岡県内の大気環境を的確に把握し情報提供していくために、福岡県としても北九州市をはじめとした各政令市と緊密に連携を図っていく必要がある。